

金沢・白山・野々市

古代の里

探訪マップ

東大寺領横江荘遺跡 荘家跡 (信山市)



御経塚遺跡 (野々市市)

東大寺領横江荘遺跡上荒屋遺跡 (金沢市)



チカモリ遺跡 (金沢市)



史跡と探訪コース

① おまる塚古墳(市指定史跡) 金沢市北塚町152

おまる塚は古墳時代の墳墓です。南北23m、東西19m高さ4.5mの墳丘が残っており、円墳と考えられています。おまる塚古墳の北西に位置する宇佐神社古墳とあわせ、金沢市内における墳丘が残る古墳の一つです。



② びわ塚古墳(市指定史跡) 金沢市南塚町118

びわ塚は古墳時代の墳墓です。南北20m、東西16m、高さ1.5mの墳丘が残っており、円墳と考えられています。平成9年に区画整理に伴う発掘調査が古墳の周辺で行われ、周溝の一部が見つかっています。



③ 金沢市埋蔵文化財センター(金沢縄文ワールド) 金沢市上安原南60

埋蔵文化財センターは平成9年に出土品の整理・記録作業を行う施設として開設しました。来館者が作業工程や出土品を見学することができます。平成27年にはチカモリ遺跡の柱根や中屋サワ遺跡出土品を展示する金沢縄文ワールドが併設されました。



④ 東大寺領横江荘遺跡 上荒屋遺跡(国指定史跡) 金沢市上荒屋7丁目

上荒屋遺跡は奈良・平安時代の遺跡です。昭和63年に発掘調査を行い、建物跡や、運河の跡などが見つかりました。また、「東庄」と墨書された須恵器がたくさん出土し、横江荘と関連する施設であることが明らかとなりました。



⑤ 東大寺領横江荘遺跡 荘家跡(国指定史跡) 白山市横江町

東大寺領横江荘遺跡は奈良・平安時代の遺跡です。昭和45年の発掘調査では、何棟もの建物跡と大量の土器が出土し、横江荘の中心施設、荘家跡であることが判明しました。



金沢市・白山市・野々市市が隣接する地域には、国の史跡である「チカモリ遺跡」、「東大寺領横江荘遺跡」、「御経塚遺跡」をはじめ、地域の歴史にとって重要な遺跡や遺跡に関連する施設が数多くあります。史跡の魅力をもさらに高めるため、金沢市と白山市、野々市市の3市が連携して、これらの史跡を探訪するマップを作成しました。史跡や展示施設をウォーキングやサイクリングなどで巡ってみてはいかがでしょうか。



【探訪ルート】

- おまる塚古墳～びわ塚古墳 (所要時間約20分)
- 埋蔵文化財センター～チカモリ遺跡 (所要時間約20分)
- チカモリ遺跡～御経塚遺跡 (所要時間約30分)
- 御経塚遺跡～東大寺領横江荘遺跡 (所要時間約30分)
- 埋蔵文化財センター～東大寺領横江荘遺跡 (所要時間約20分)



⑥ 経塚(市指定史跡) 野々市市御経塚2丁目335

経塚は戦国時代から江戸時代に作られた經典を永く後世に伝えるため地中に埋めたもので、町名の由来にもなっています。県内でも数少ない平野に立地する経塚です。



⑦ 古府縄文遺跡(市指定史跡) 金沢市古府町南851

古府遺跡は縄文時代中期のムラの跡です。昭和28年の発掘調査では、竪穴住居や石囲い炉などが見つかり、表面に渦巻き模様を施した土器が出土しました。この土器は「古府式土器」とよばれ、縄文時代を研究する上で貴重な資料となりました。



⑧ チカモリ遺跡(国指定史跡) 金沢市新保本5丁目47

チカモリ遺跡は縄文時代晩期のムラ跡です。昭和53年に発掘調査を行い、347本の柱根が出土しました。円を描いて配置されていたので、建物の柱と考えられています。隣接地にはチカモリ遺跡や市内のほかの遺跡の出土品を展示する埋蔵文化財収蔵庫があります。



⑨ 御経塚遺跡(国指定史跡) 野々市市御経塚1丁目549

御経塚遺跡は縄文時代後期より晩期にかけて営まれたムラの跡です。昭和29年に発見され、発掘調査により、竪穴住居、石囲い炉、配石遺構などが見つかりました。ムラの中心部に広場があり、この周囲に住居が環状に並んでいることがわかりました。



⑩ 野々市市ふるさと歴史館 野々市市御経塚1丁目182

昭和58年に御経塚遺跡出土品の展示収蔵施設として開館し、平成4年に、市内遺跡の出土品等の展示と整理作業を行う施設を増築しました。館内には御経塚遺跡出土品の展示や、市内のほかの遺跡の出土品なども展示してあります。



【凡例】

- 国指定史跡
- 市指定史跡
- ▲ 展示施設等

史跡と展示施設



11 白山市立博物館 白山市西新町168-1

白山市の歴史・文化を紹介する総合博物館です。2階常設展示では、昭和45年に横江町地内で発見された東大寺領横江荘遺跡荘家跡の荘家一部が実物大で復元されているほか、ジオラマや出土遺物で遺跡を紹介いたします。



12 末松廃寺跡(国指定史跡) 野々市市末松2丁目

末松廃寺は飛鳥時代の寺院跡です。発掘調査の結果、西に金堂、東に塔を配置する「法起寺式」の伽藍配置をとることが確認されました。塔の規模は大きく、後の国分寺の規模に匹敵するといわれています。当時、北加賀を支配していた豪族の「道君」が建てたといわれています。

